第六期長期計画・第二次調整計画策定委員会 傍聴者アンケート
第4回実施分（令和6年10月4日開催） 自由記載欄
【傍聴者 13名】

○ 今回の策定委員会で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。

- ・「みんなで語ろう 武蔵野市の未来の学校づくり」の参加者数・参加者構成に意見が多数出ました。開催日時を考えると当然の結果だと思われます。平日の1時間のために有給休暇を取る人がいるのでしょうか？

現役保護者の声がほしければ学校公開の日に合わせるなど、参加者目線で考える必要があります。

第一中学校（令和6年7月31日（水曜日）11時～12時）

第二中学校（令和6年7月31日（水曜日）9時～10時）

第三中学校（令和6年8月26日（月曜日）15時30分～16時30分）

第四中学校（令和6年7月30日（火曜日）10時～11時）

第五中学校（令和6年7月31日（水曜日）13時30分～14時30分）

第六中学校（令和6年8月21日（水曜日）10時～11時）

市の出費の70%を学校が占めているという話がありました。ここを絞れば大金を作り出すことができます。しかし、公共施設等総合管理計画では学校の床面積が市の50%を占めているという記述に対して、市は学校の床面積を減らしたいという意味ではないと回答しています。ここを絞って他の事業へお金を回すことはしないということです。議会から何度も確認されています。それでいいと思います。

- ・『年金+5万円』を“就労”と市民が理解しているのは、市長が市議会等で何度もそう説明しているからです。だから私も含め、高齢者の“社会参加”ではなく“就労”として意見を述べられる方が多いのではないのでしょうか。
- ・リスキングについて、確かに高齢者だけではなくあらゆる市民が対象であるべきだと思います。
- ・長期計画と市長公約の関係。市長公約が読み取れる書きぶりなのに、多くの時間と市職員・策定委員を使って「一目でわかる書き込み」に書き換えなければならないのか？どこまで市長公約につきあう必要があるのか？時間も人材も財源も有限。

- ・市長は答申を差し戻すのではなく、答申をどの程度参考にする／しないを決められる。だから市長の顔色を窺った策定にしなくていい。
- ・二中・六中の統廃合についてのハレーションは政治とか選挙の関係ではないか？そのとおりです。ですがそれだけではなく、市教委は突然何の前触れもなく市民の合意がない「施設一体型小中一貫校」の計画をぶっこんできた前科があるので、反対の声がないから市民の同意があったと後に言われたいよう、しっかり反応せざるを得ないのです。
- ・未来の学校づくりワークショップ報告書、ワークショップ内で出た意見をどういう基準で拾ったのか（付箋に書いてある？テーブル参加者の発言？テーブル代表の発言？）が説明ないまま数をカウントグラフに表していることに違和感。また、たった1日、平日の午前中にたった1時間しか開かれていないワークショップで出てきた意見、つまり限られた条件で参加できる数少ない母数から短時間で集めた意見であることは考慮していただきたいです。保護者(子育て世代)の参加がたった17%というのは、開催日時の設定を間違えたと思えない。せめて学校公開の直後など、気軽に参加しやすい日程にすればいいのに。
- ・保護者として小中学校へは授業・課外クラブ・あそべえのお手伝い、PTA活動等で頻繁に出入りしていたが、まったく「地域に開かれた学校」だとは思えなかった。学校にとってあきらかに役に立つ人に対してしか開かれていないと感じました。
- ・「地域に開かれた学校」を選んだ地域住民の多くは、校庭・体育館・空き教室の開放(コミセン並みの自由な個人利用)を指していると思います。
- ・駐輪場についても政治問題。吉祥寺の駐輪場売却について、市長が市議時代に前市長に対して駐輪場売却の不当性を訴える際に「駐輪場は駅近にないと不便だ」という立場だったため、「駅前から一定程度離れた場所に配置」を肯定できなくなってしまったのではないかと。
- ・冒頭に行われた市長公約と長期計画(調整計画)の関係に関する議論は、大いに納得できるものでした。中でも、全体の了解となった「市長選があれば、調整計画の見直しを新市長はコールすることができるし、それを受けて策定委員会が中身を検討して市長に答申することになるが、それは市長の公約に従うということではない。ただ、市長もその答申に無条件に従うということではない」との議論について、副委員長の「市民の参加も得て、そのように議論を行うプロセス自体が、武蔵野市方式の市民自治なんだ」とのご意見に、深く共感しました。ただ、そうであれば、「第2次調整計画の基本的な考え方」の3で、「市長公約の速やかな実現を図ることができるよう、第2次調整計画を2024年度中に策定する」という表現は、あたかも市長公約はすべて実現を図るのだとされているように読め、問題ではないかと思いました。
- ・「吉祥寺パークエリアのまちづくり」については、多くの委員の率直な意見交換により、どうや

らこういうことかなと輪郭が見えてきて、極めて興味深く思いました。担当される委員の最初の説明は、その限りにおいて、現実的で合理的なものであると思われましたが、委員の端的な「高さ制限を廃止するような超高層ビル建設による再開発はしないことを確認して欲しい」との切り込みに対して、委員は、「超高層ビルをイメージしてはいない」としつつも、「高さ制限を廃止しない」とすることには遂に了解されませんでした。要するに、当面は既存の計画のスピードアップで、事態を前に進めるが、これからの計画検討においては、高層化による再開発を否定しないということなのでしょう。また、副委員長が、「吉祥寺が都市間競争で遅れを取っている」とか「学校建設に比較すると、再開発は途中でうまくないとなったら、中止することも可能だ」との発言には、ゼロサム競争とならざるをえない人口減少時代の「都市間競争論」の正当性自体が今や問われていること、いったん公共設備を計画に入れたり、多額の補助金をつぎ込んで、多数の関係者を抱えた再開発が、途中で引き返せるとは思えないことから、首を傾げざるを得ませんでした。今全国で注目されている岩手県紫波町の「補助金に依存しないまちづくり」に大きな役割を果たした東洋大学公民連携の専門家として、より吉祥寺の歴史と現実を踏まえた夢のあるご提案を期待したいと思います。

- ・長期計画は市のすべての計画の基本となる計画なので、今まで通り対面で行うべきだと思われます。委員の先生方もお近くにお住まいなので、わざわざオンラインにする必要性が感じられません。オンラインだと画面からの情報が少ないため音声に集中するので疲れるし、オフラインで話した方がいい事柄もあります。あくまで補助的な手段にすべき、と思われまます。
- ・傍聴というのは議論の密室化を防ぎ、傍聴者が議論の全体像をつかむためにも「その場にいる」ことが重要と思われます。なぜか長期計画は傍聴者が別室にされていますが、傍聴制度の主旨を踏まえて他と同じように同室にしていきたいと思います。

○ その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。

- ・長期計画・調整計画はどれだけ市長公約や政治問題につきあわなければならないのか？
- ・字幕を日本語設定に見ていましたが、総合政策部長と教育企画課長の字幕は英語でした。
- ・最近の流れとしては、財政的にも住民にも負担の大きい改築よりも、現在ある物を補強して使う改修の方へと進んでおります。学校の改修については、当初から住民の声が届けられているので、考慮していただきたいと思います。学校は子供達が学ぶ場所でもあり、地域コミュニティの場でもあり、災害の際の広域避難の場でもあります。普段から子供の教育を通じて地域の交流も図ることでその地域の伝統も次の世代へ受け継ぐことができ、子供達も様々な年代の人と接することで人間として成長でき、災害のような非常時には普段の協力関係を生かすことができます。このような実態を踏まえて計画を考えていってほしいと思います。

- ・吉祥寺東側地域は治安が悪くなったため、市民が住みやすい街にするために、吉祥寺図書館と本町コミュニティセンターを設置した、という経緯があるので、それを尊重してほしいと思います。街を歩いてもらえば分かりますが、駐車場はどんどん増えているのに駐輪場は減っています。環境への負担の軽減と健康のためにも駐輪場は必要です。
- ・最後に個々の説明会に参加してその場で伝えたり、アンケートに書いたりしたものが総合政策部の方に伝わっていませんでした。全体を見る立場の方達が現場の声を知らないのは計画を考える上でも問題があると思われるので、市役所内での意思疎通を図っていただければ、と市民としては切に願っております。

※文字及び文章はできる限りアンケートに記入されていた原文のまま記載しています。
また、委員名については削除しています。